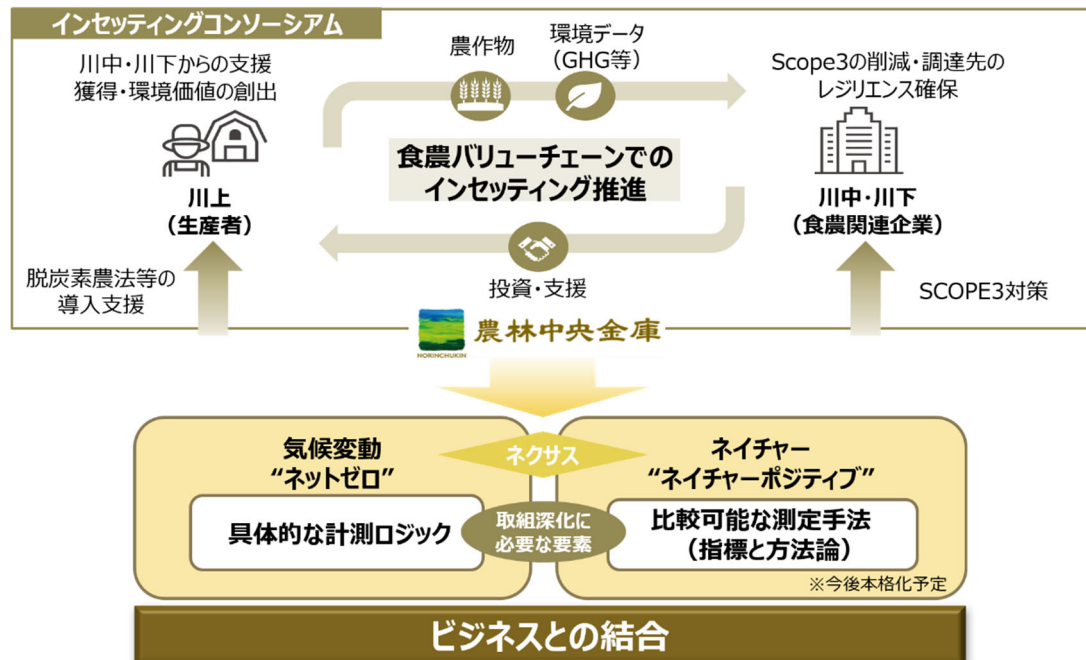




「インセッティングコンソーシアム」 第 2 回全体会合の開催について

～インセッティングプログラム本格稼働に向けた今後の展開～

農林中央金庫（代表理事理事長 北林 太郎、以下「当金庫」）が事務局を務めるインセッティングコンソーシアム¹（以下「本コンソーシアム」）は、食農バリューチェーン（以下「VC」）におけるネットゼロ、ネイチャーポジティブへの移行（トランジション）に向け、第 2 回全体会合を開催しその成果をまとめましたので、お知らせいたします。



1. インセッティングを取り巻く動向

インセッティングとは、企業が投資や支援を通じて、企業が事業活動を行う商流上で排出される温室効果ガス（以下「GHG」）（Scope3）の削減とネイチャーポジティブへの移行を目指す取組みです。直近では 2026 年 1 月に GHG プロトコル²から「Land Sector and Removals Standard（土地セクターおよび炭素除去基準、以下「LSRS」）」が発表されるなど、インセッティングの重要性がますます高まっています。

一方で国内においては、インセッティングの概念は十分に浸透しておらず、特に農林水産業を調達先と

¹ 「インセッティングコンソーシアム設立について」（2024 年 8 月）

² 企業を対象とした、GHG 排出量を算定・報告するための国際基準

する食農関連企業においては、トレーサビリティの不足等により、生産現場への投資・支援の実装が進みにくい状況にあります。そうした課題認識のもと、本コンソーシアムでは、ステークホルダー間の連携強化を軸に、食農 VC におけるインセッティングの実装促進に取り組んできました。

2. 本コンソーシアムの取組み

本コンソーシアムは3つのワーキンググループ（畜産・土壌・米穀）に分かれ、これまで計6回の会合を開催し、インセッティングの実装に向けた議論を深めました。今回開催した第2回全体会合では、全てのワーキンググループが集まり、足下の政策やネイチャーポジティブの動向に関する基調講演のほか、土壌炭素貯留に関する新たなプロジェクトへの参加募集、コンソーシアムメンバーのこれまでの議論や国際イニシアティブの発行するレポート等をベースにした「インセッティングガイドライン Ver0.9」も発表しました。また、メンバー間でのネットワーキングも活発に行われ、連携を強化する貴重な機会となりました。

農林水産省
みどりの食料システム戦略グループ長
近藤様 基調講演



農林中央金庫
TNFD タスクフォースメンバー
飛弾 基調講演



会場の様子



3. 本コンソーシアムにおける主な成果

1. ステークホルダーとの連携強化

■ 行政との連携

農林水産省が推進する「GHG 簡易算定ツール³」は、Scope 3 カテゴリ1（購入製品・サービスに関する GHG 排出量）の把握・算定における一次データとして活用可能との発表がありました。本コンソーシアムとしては、生産現場における基準・ツールの乱立を回避する観点から、生産現場において最も普及している同ツールを Scope 3 の把握・算定における一次データ収集の主要なツールとして活用することを視野に、同省との連携を進めています。

■ 業界団体との連携

生乳の流通の9割が指定団体制度のもとで行われる日本国内においては、業界全体で環境を含めた生乳の持続性に関する議論をしていく必要があります。その観点から、生乳の業界団体である Jミルク・中央酪農会議を本コンソーシアムのオブザーバーとして招き、生産から製造、流通の各ステージにおける課題を把握したうえで議論を進めています。

³ 農林水産省が提供する、生産段階の GHG 排出量を算定するためのツール

■ 参加メンバー拡充

本コンソーシアムは 2026 年 6 月時点において参加企業・団体は 32 社（※詳細は別紙参照）に拡充しています。（2025 年 7 月の第一回全体会合時点では、19 社・団体が参加）

2. 土壌炭素貯留プロジェクトの開始

LSRS の公表を背景に、国際的に土壌炭素貯留の重要性が高まる一方、日本国内では炭素貯留の方法論が未だ確立されていません。本コンソーシアムでは、テクニカルアドバイザーである農研機構とともに、国内における炭素貯留の方法論確立のため、基準策定と実証実験の参加募集を開始しています。また、あわせて GHG 貯留量の測定や報告及び検証の仕組みの構築、土壌診断等関連産業の育成・発展についても重要事項として捉え、取組みを進めています。

3. インセッティングガイドライン Ver0.9 発刊

全 6 回のワーキンググループにおける議論をベースとし、国際的なインセッティングの基礎概念や考え方を整理した「インセッティングガイドライン Ver.0.9」を策定し、メンバー内で共有しました。本ガイドラインは、正式版となる「インセッティングガイドライン Ver.1.0」に向けた中間整理として位置付けています。

01	 ステークホルダーとの連携	◆ 行政との連携 ◆ 業界団体との連携 ◆ 参加メンバー拡充
02	 土壌炭素貯留PJの開始	◆ 国内における基準策定 ◆ 関連産業の発展
03	 ガイドラインVer0.9発刊	◆ インセッティングの国内浸透 ◆ 国内実践への調整

4. 今後の取組み

今後、本コンソーシアムでは、各ワーキンググループにおける具体的なプログラムの構築に向けた議論を重ね、試験的な実装等を通じて、インセッティングの実践的な内容を具備したガイドライン Ver1.0 の発刊を進めます。また、ネイチャーポジティブの評価指標に関する国際的な議論の進展を踏まえ、ネイチャーワーキンググループ設立の検討やステークホルダーとの連携をより一層進展させることで、生産者所得の向上と食農 VC におけるトランジションの実現を目指します。

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 経営企画部 広報コミュニケーション班
（蔵方・丹羽） Tel：03-6362-7172

【別紙】インセッティングコンソーシアムの参画メンバー（2026 年 6 月現在）

参画メンバー

Eat Well, Live Well.



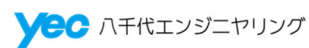
Oisix ra daichi



SUNTORY



FAEGER



テクニカルパートナー

